

鳥信 WEB 版 2022 年 10 月号

2022 年 5 月 12 日～8 月 7 日の鳥信

<筑後エリア>

9月3日 エナガ±10・大牟田市 石橋（信）

8 時 30 分に東萩尾の自宅前の畠の梅の木に 10 羽程のエナガの群れを見ました。秋から冬にはたまに見ますが、いつ見ても、可愛いですね。

*9月11日 沖の端川河口のツバメたちと水鳥調査から 松富士将和

今年は、少し時期が早かったので、少なかったようでしたが、沖の端川河口の所では初めはツバメ 15 羽、ショウドウツバメ 25 羽ほどの感じでしたが、40 分位の間では。ツバメ 30 羽、ショウドウツバメ 50 羽いたと思います。

有明海水鳥調査を実施しましたが、今日もシギ・チドリは少なかったです。

アオアシシギ、チュウシャクシギ 2、キアシシギ 1、ダイサギ 24、アオサギ 9、コサギ 1

*9月12日 秋の有明海水鳥調査から 中嶋秀利

以下の鳥を観察しました。

【三池干拓】 チュウシャクシギ 3、アオアシシギ 21

【矢部川左岸（楠田川河口干潟）】 セイタカシギ 4、アオアシシギ 9

<九州各地>

*9月11日 クロハラアジサシ類・白石干拓（佐賀県） 野田(美)

有明海水鳥調査では、担当した矢部川河口にはシギチは 1 羽もいませんでした。

佐賀空港から白石干拓まで足を延ばしてきました。佐賀空港では、ツバメとショウドウツバメが多数群れていました。メダイチドリ 30 数羽とトウネン、キリアイ、コチドリがいました。

白石干拓ではお目当ての内水面系シギチは確認できませんでしたが、クリークをクロハラアジサシが 8 羽飛び回っていました。うち 1 羽はハジロクロハラアジサシではないかと思いますが、どうでしょうか？



△ハジロクロハラアジサシ 撮影：野田(美)



△ハジロクロハラアジサシ 撮影：野田(美)

<2022年のブッポウソウの記録まとめ>

八女市矢部村の日向神ダム周辺では今年もブッポウソウが渡来しました。会員のみなさんの情報から記録を取りまとめました。【鳥信 WEB 版 2022年7・8月号も参照】

今年のブッポウソウは西園橋で5月22日にペアの渡来が確認されてから8月29日まで断続的に観察されました。交尾行動や巣穴への出入りが確認され繁殖したものと考えられます。8月29日には幼鳥個体が観察されており、巣立ち雛の可能性があります。また、笹又橋でも1羽観察されたこともあり、繁殖の拡大が期待されます。

5月22日 2羽の渡来が確認される。(栗原氏より・松富士)

5月31日 2羽が電線に止まっていた。時々橋の穴に営巣活動をしたり、雄が雌に餌を与えていた。(中尾)

6月2日 2羽を確認。交尾も確認されており、営巣・抱卵を始めている頃か。(松富士)

6月4日 朝8時頃、西園橋の電線に2羽確認。1羽は橋の巣穴に入り、もう1羽は近くの電線に止まっていた。11時半頃、笹又橋近くの電線に1羽確認。笹又橋の穴には入らなかつたが、西園橋の個体と同じか?3羽いるのか?(江口)

6月10日 親鳥2羽確認。(松富士)

6月19日 親鳥2羽確認。(松富士)

7月1日 1羽を確認、いつもの巣営場所に入った。(石橋)

8月9日 確認出来ず。(石橋)

8月10日 確認出来ず。(石橋)

8月14日 第3回ベニアジサシ調査の帰りに西園橋に行き、小一時間待ったが、ブッポウソウは確認できなかった。(野田(美))

8月29日 17時半頃、西園橋の巣箱前の電線に止まる2羽を確認。最初、西園橋の橋梁付近の電線等を最初に確認するが居なかつたので道路脇の巣箱のポイントに移動、巣箱近くの電線上に止まっている1個体(成鳥?)を確認。すぐ飛び去ったが、しばらくして今度は対岸近くの電線上に2個体を再確認。遠方で夕日も落ちていたのではっきりしないが、嘴の朱色がくすんだ色彩に見えるので幼鳥か?(中嶋秀利)

8月30日 巣箱近くの電線に止まる2羽を確認。(栗原氏より中嶋)

8月31日 確認できず。(野田(敦))



▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる個体・8月29日) 撮影: 中嶋



▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる個体・8月29日) 撮影：中嶋



▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる2羽) 撮影：中嶋

<2022年のベニアジサシの記録まとめ>

三池島のベニアジサシは 2014 年以降コロニーとしての繁殖が成立していません。2016 年には最大 355 羽が渡来し、コロニーでの繁殖を始めた時点で大雨のためと思われる大量の巣放棄があり、その後いなくなりました。2017 年には最大 243 羽の渡来が確認されましたが繁殖は失敗しており、この時はカラスによる捕食があったものと考えられています。その後は 2018 年 15 羽、2019 年 4 羽と少数の確認がされたものの、2020 年には渡来が確認できず、コロニーの消滅が懸念されました。昨年(2021 年)は 6 羽が確認され、他地域ではほとんど記録されない本種が三池島周辺ではほぼ継続的に記録されていることに期待が残されていました。

本年、611 羽という過去最大級レベルともいえる渡来数が確認されました。残念ながら大規模コロニーとしての繁殖の確認には至りませんでしたが、調査結果をまとめました。

7月2日 第1回調査

4 羽のベニアジサシが三池島周辺を飛び回っているのを確認した。4 羽とも地上に降りることはなかった。

7月16日 第2回調査

57 羽のベニアジサシ成鳥と巣を確認した。巣は島の北東部に 7 座確認し、すべて 1 座に 1 卵ずつであった。島のコンクリート上でディスプレイも観察され、卵も 1 卵ずつだったことから、繁殖し始めてまだ間もないと思われた。左脚にシルバーリングを付けた個体も 3 羽確認した。



▲7月16日・三池島のベニアジサシ飛翔 57羽 撮影：松富士

8月14日 第3回調査

三池島の外周を3回旋回し、飛来状況のみ確認し、繁殖状況の確認はできなかった。三池島の外周のコンクリート上に降りている数と飛翔している数を合わせて611羽を確認した。近年では多飛来であった。その他島内に降りている個体もいたので合わせて700羽前後は飛来していたと思われ、その中に若鳥(昨年生まれの第1回夏羽)と思われる個体も数羽確認した。また、交尾行動も確認した。



▲8月14日・三池島の外周コンクリートに群れるベニアジサシ 撮影：江口



▲8月14日・ベニアジサシの若鳥 撮影：江口

8月28日 第4回調査

成鳥が300±羽と前回に比べて減少。ヒナ、幼鳥は確認できなかった。営巣数は18巣確認、1巣に1個ずつ産卵されていた。飛来数の割には営巣数が少なく、ヒナや前回確認した幼鳥も確認できなかつたが、孵化したと思われる殻を4個確認した。餌を加えたベニアジサシも見られ、また、求愛給餌行動も確認した。今後、繁殖に成功するか不明であるが、飛来がこれまで最も遅いパターンとなっており、これが繁殖に影響しているのか？または、産卵前の大雨による影響か？また、脚にシルバーリングを付けた個体を4羽確認。



▲8月28日・営巣地を飛び回るベニアジサシ 撮影：江口



▲8月28日・外周コンクリート上のベニアジサシ 撮影：江口



▲8月28日・ベニアジサシの求愛給餌と思われる行動 撮影：江口

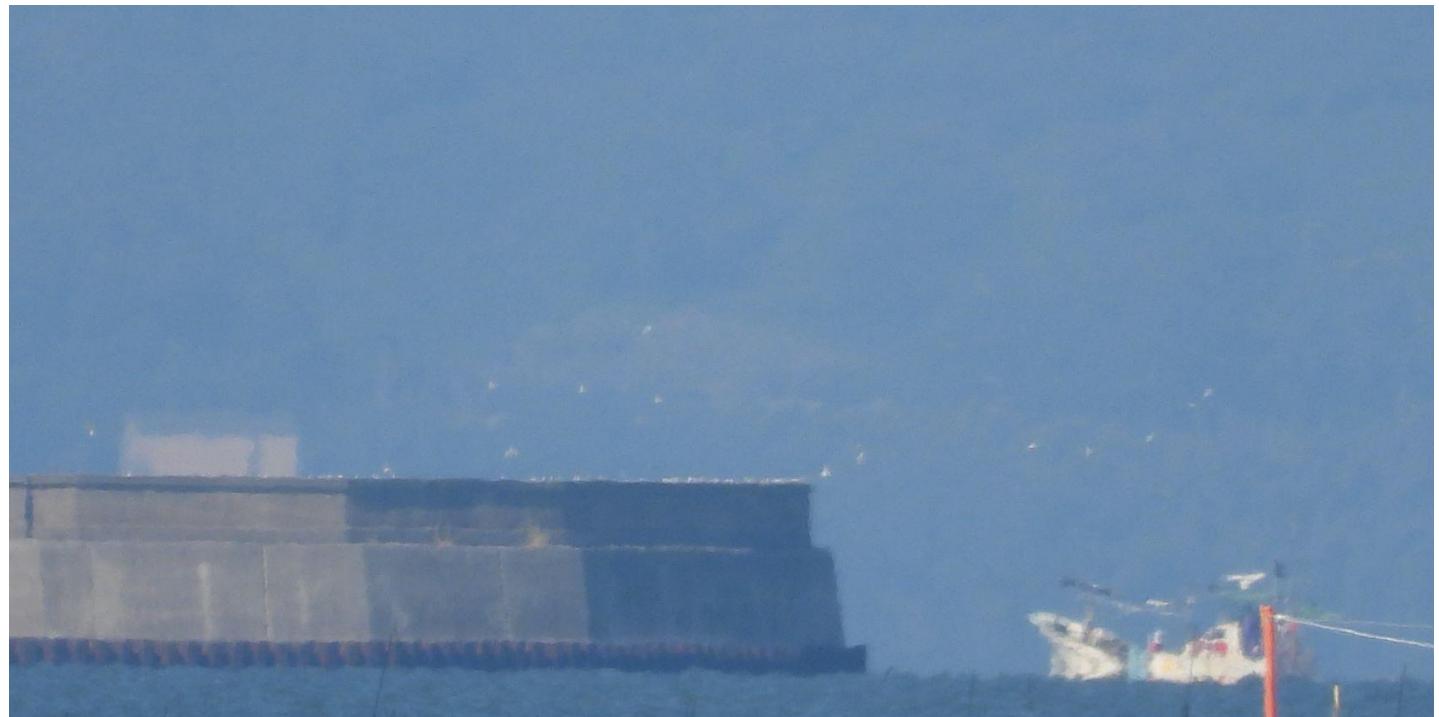


▲8月28日・ベニアジサシの産座と卵(1卵) 撮影：江口

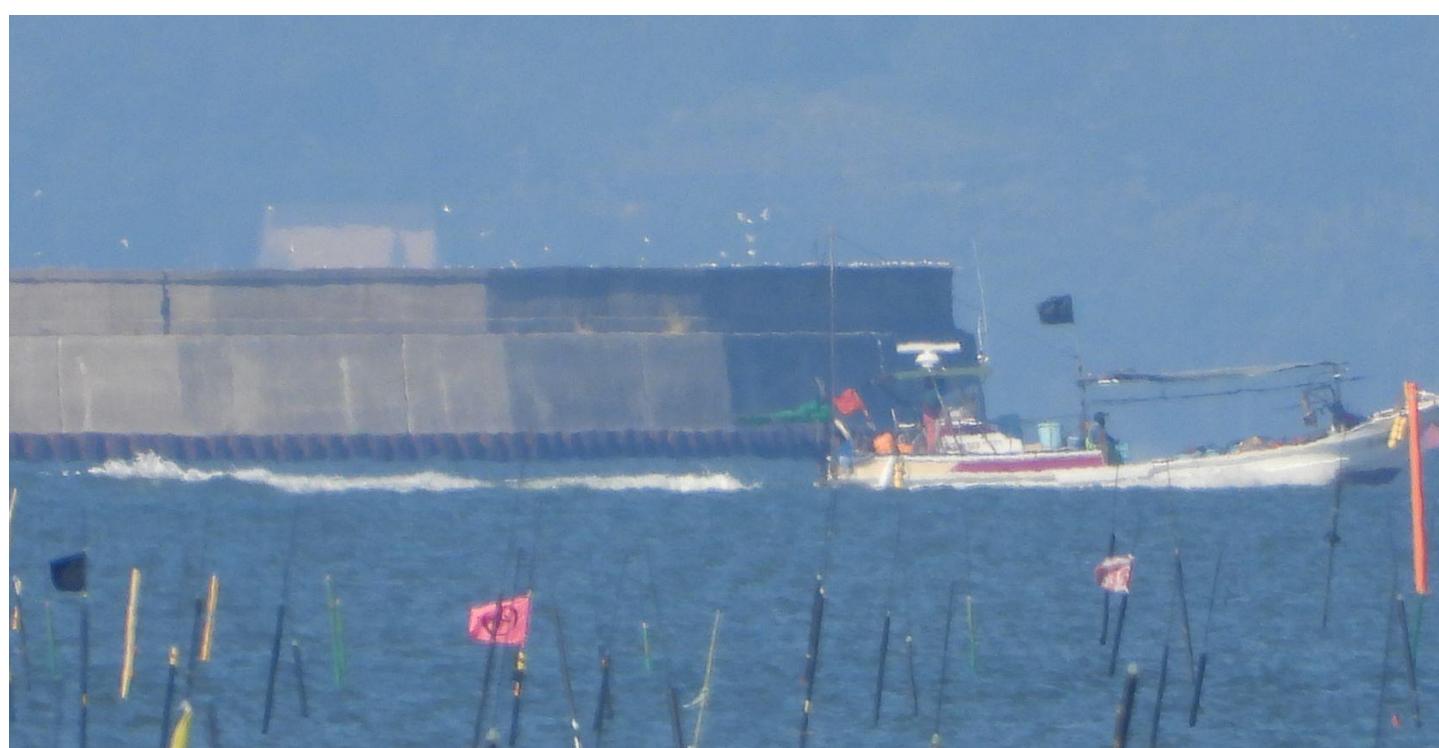
9月12日 三池島上空・ベニアジサシ 300+の観察 中嶋秀利

三池干拓域(大牟田市)にて有明海水鳥調査のため海岸線堤防沿いに車を走らせながらシギチの確認作業をしていました。西方有明海上の初島、そして遠くの三池島をフィルドスコープで覗いて観ましたところ三池島上を飛び交うベニアジサシかと思われる鳥類の飛翔群を確認しましたので報告します。

飛翔群はレンズ越しで空気が揺らぎユラユラの映像ではっきり見えませんが 300 羽以上が 3 ~ 5 分越しに三池島上空から海上空を大群で移動、海中に飛び込む様子も確認出来ました。当分の間大牟田沖の海上で過ごしてくれるのでしょうか ?



△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋

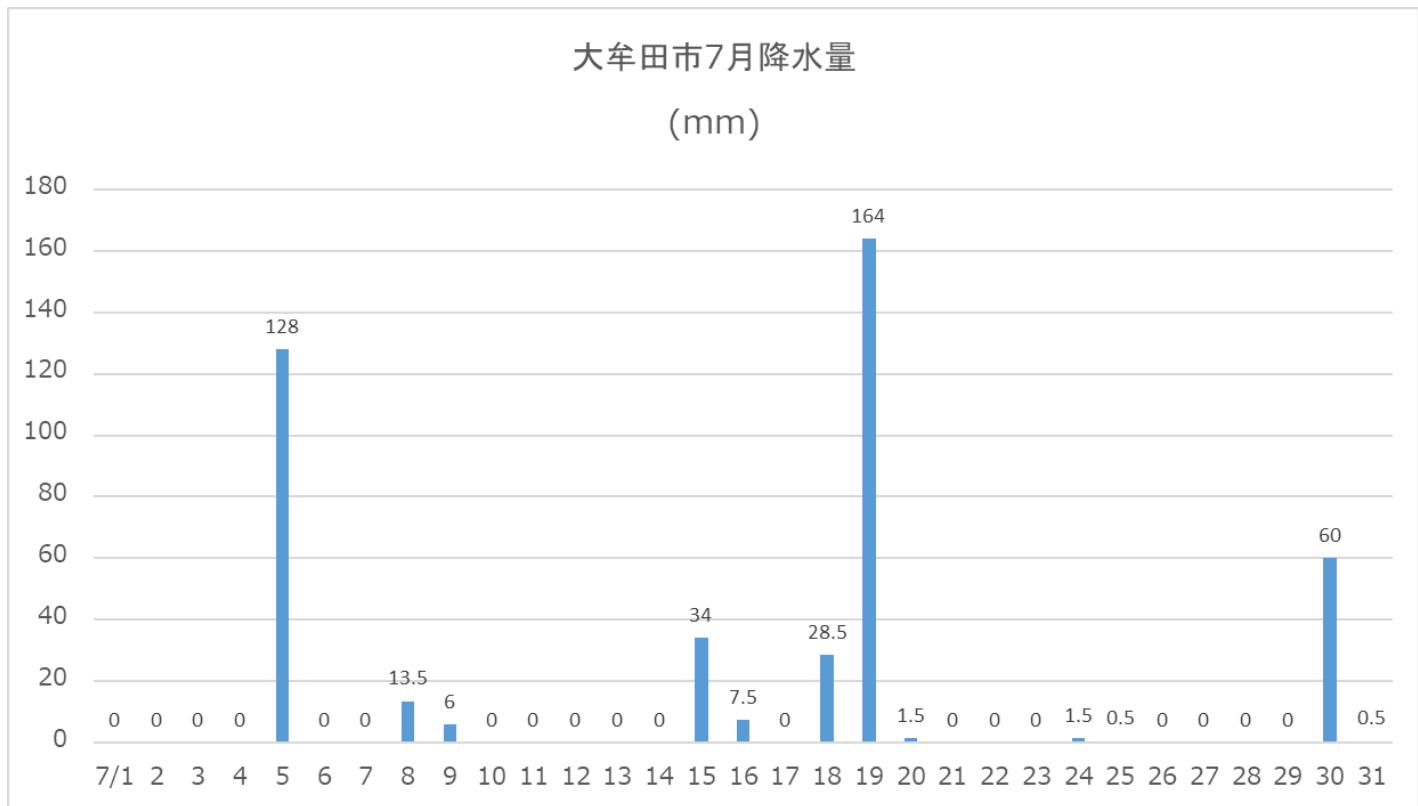


△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋



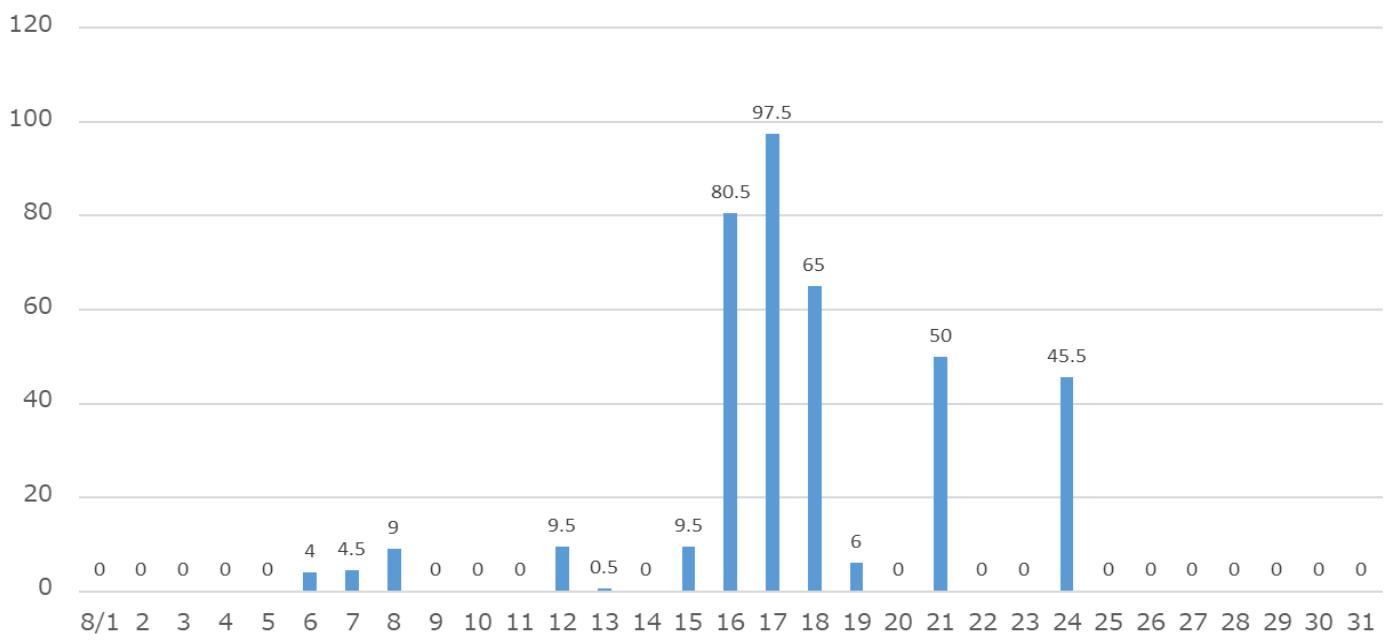
△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋

福岡県大牟田市の7月と8月の降水量（気象庁データより）



7月16日の調査の直後の19日に大雨が降っており、最初の繁殖は阻害されたと思われます。

大牟田市8月降水量 (mm)



8月14日の調査では外周調査のため繁殖状況を確認できませんでしたが、直後の16日～18日に大雨が降っており、仮に多数飛来していたベニアジサシが繁殖コロニーを形成していたとしても、2016年と同様に営巣放棄してしまった可能性があります。

しかし、その時点で渡去せずに8月28日にも300羽ほどの個体が残存し、若干の営巣、産卵も確認されたことは、遅い繁殖が成功したのか興味深いところです。繁殖の成功は確認できませんでしたが、陸からの観察で、9月中旬にも相当数のベニアジサシが三池島に残っていたことが分かりましたので、抱卵、育雛を続けていた可能性も考えられます。

さらに、来年以降の繁殖コロニーの確認が期待されます。

過去28年間の渡来数の変遷

最大飛来数

